

みな
皆さん、ぼくたち「やいちゃん」と「ひこにゃん」には、
じつ ふか
実は深～いつながいがあるってこと知ってますか？



「やいちゃん」は言うまでもなく焼津市のキャラクター
そして、「ひこにゃん」は彦根市のキャラクターです。



ひこね だいはんしゅ い い なおたか かか
そこには彦根2代藩主・井伊直孝が関わっているんだよ。

ねえ、やいちゃん。幕末に江戸城桜田門で暗殺された
い い なおすけ だれ
井伊直弼は知っているけど、井伊直孝って誰？



とうしゅ ふ だいだいみょうひつとう
井伊直弼より14代前の井伊家当主で、譜代大名筆頭の地
きず やいづ
位を築いた人なんだ。しかもここ焼津で生まれたんだ。

そうか、焼津で生まれた直孝が彦根の殿様になったのね。
ひこね
それで焼津と彦根のつながいがあるってわけか。



そういうこと。だからボクやいちゃんとひこにゃんは、とって
おほ
も仲良しなんだよ。みんなもよく覚えておいてね。

い い なおたか
「井伊直孝」ってどんな人？

井伊直孝は^{てんしょう}天正18年(1590年)、^{するがこく}駿河國中里村（現在の焼津市中里）で生まれました。父はのちに^{ひこねはんしょだいはんしゅ}彦根藩初代藩主となった井伊直^{い い なおまさ}政、母は中里村の農家の娘でした。ところが直孝の母は^{せいしつ}正室（正式な妻）ではなかったため、直孝は幼少期を上州（現在の群馬県）のお寺に^{あず}預けられ^{よういく}養育されました。ようやく父・直政に引きとられたのは^{けいちょう}慶長5年(1600年)の^{せきがはら}関ヶ原の^{たたか}戦いの^{のち}後でした。

ところがその2年後、父・直政が^な亡くなります。すると直孝は^{とくがわいえやす}徳川家康から三男・^{ひでただ}秀忠に仕えるように命じられます。そして秀忠が2代^{しょうぐん}将軍に^{しゅうにん}就任したのちも近習として仕えました。

さらに慶長20年(1615年)の^{おおさか}大坂の^{じん}陣で井伊軍の^{たいしょう}大將を^{めい}命じられると、^{だいかつやく}大活躍をして^{とよとみけだとう}豊臣家打倒に貢献しました。すると直孝は大御所から彦根藩・井伊家の^{こうけいしゃ}後継者に命じられたのです。つまり焼津で生まれた井伊直孝がのちに彦根藩2代藩主となって、幕末まで続く譜代大名筆^{ふだい ひつとう}頭の^{ち い きず}地位を築いたのです。



焼津と彦根には
深い縁があるんだ



あかぞな
井伊の赤備え

井伊家と言えば^{かつちゅう}甲冑や^{さしもの}旗指物などの^{ぶぐ}武具を赤一色に統一した赤備えが有名ですが、その赤備えを最初に用いたのは^{かい}甲斐^{たけだ}武田氏でした。ところが武田氏の滅亡後、井伊直政がその^{ひき}軍団を率いて、さらに直孝がこれを引き継いだのです。

まねきねこ
直孝の招き猫伝説

あるとき直孝が古びた寺の前を通りかかると突然空が暗くなりました。すると一匹の白い猫が^{てまね}手招きして寺の中に^{あんない}案内したのです。お陰で直孝は大雨に濡れずに済みました。そこで直孝はこの時のお礼にと寺を新しく建て替えてくれました。これが井伊家の菩提寺・豪徳寺です。その後、寺では幸運を招いてくれた白い猫を形どってお^{まつ}祀りました。これが招き猫の由来と言われております。今では彦根のキャラクター「ひこにゃん」のモデルにもなっております。



い い なおたか しやうがい しやうねんき
「井伊直孝」の生涯（少年期）

てんしやう するがこくなかざとむら やいづし
天正18年(1590年)駿河国中里村（今の焼津市中里）で生まれた直孝は、
ようみやう べんのすけ せいかつ さい
幼名を弁之助と言いました。母と二人きりの生活でしたが、弁之助4歳のと
き二人は父のいる じやうしやう ぐんま む
上州（今の群馬県）に向かいました。弁之助
をひきと けと けと
引き取ってもらうためです。しかし父は弁之助を引き取ること

エー！

弁之助がかわいそう

ひどい父親だ！

あず しよういく
なく寺に預けて養育させました。母
はな さび
と離れての生活は寂しいものでし
たが弁之助は しんぼう
辛抱しました。すると よくねん
翌年、その最
あな
愛の母も亡くしてしまいました。



そんな弁之助が10歳になったとき、 おおてがら
大手柄をたてました。夜中に
むら しの い とうぞく つか
村に忍び入った盗賊を一人で捕まえたのです。この うわさ
噂は弁之助
の父のもとにも届きました。そこで父・直政はすぐに しろ よ
城に呼び寄せました。
城に呼ばれた弁之助は、ようやく父と いっしょ く
一緒に暮らすことになったのでした。



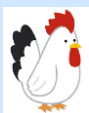
弁之助、
よかったね



ようやくお父さんと
一緒にくらせるのね

いつわばなし
直孝の逸話話

けいだい にわとり
<北野寺境内の 鶏>



あるとき直政の かしん
家臣たちが弁之助のいる寺にやってきて突然
けいだい にわとり
境内の 鶏 を追い回し始めました。それをみた弁之助はやめる
ように言いましたが彼らはそれを むし
無視しました。すると弁之助は
やり
槍を持ち出してその男たちを追い回しました。その後この子供が
しゆくん
主君の子と知った家臣たちは あわ
慌てて弁之助のもとへ しゃざい
謝罪に 来 ました
たが、弁之助はなかなか聞き入れようとしなかったといひます。

直孝の母と岡部宿の伝説

直孝の母は名を あこ
阿古といい中里村の農家の娘でした。井伊直政が
おかべ と ほうこう みそ そくしつ
岡部の宿に泊まった際、奉公に出ていた阿古を見染めて側室にした
と伝わります。この話をもとに岡部の村ではこんな うた うた
唄が謳われていた
といひます。 おかべごじやろう お
「岡部御女郎 花ならよかる 折って一枝家土産」 ひとえだいえみやげ



い い なおたか しょうがい せいねんき そうねんき
「井伊直孝」の生涯（青年期～壮年期）

ところがそれから間もなく父・直政がこの世を去ります。関が原の戦いで負った傷がもとでした。このとき徳川家康は「大坂の陣」に臨んでいました。家康は直孝の兄・直継を井伊家の大將にしましたが、直継は家臣をまとめることができませんでした。そこで急遽、直孝が井伊家の大將に任命されました。直孝はこの戦いで大活躍をしてついに豊臣家を滅ぼしました。こうして徳川の時代を迎えたのです。このとき大坂の陣で活躍した直孝は、その後、家康から井伊家の家督を継ぐように命じられました。つまり庶子であった直孝が井伊家の当主となったわけです。

晴れて彦根藩主となった直孝は藩内に質素倹約を徹底させ、自分自身も率先してそれに努めました。直孝は粗末な身なりは勿論、畳もなくすきま風が吹き入るような屋敷で生活したといわれております。



われこそは
井伊の赤牛じゃ

いつわばなし
直孝の逸話話

< 直孝の豪快さ >



直孝が井伊家の家督を継ぐことになり家康に就任の挨拶に行った時の話です。家臣団の中で最も上座にいたのは側近・本多正信でした。しかし直孝は何ら臆することなく堂々と正信の上座に座りました。やがて諸事が終わると正信に頭を下げ、「今日の私の振る舞い、さぞ無礼であったとお思いでしょう。しかし私が井伊家当主を申し付けられたからには今後このように振る舞わせていただきます。どうかご容赦下さい。」と陳謝した。すると正信は、「何をおっしゃるか。今日のあなたはご立派でした。將軍家がこのような方を抜擢された事を実にうれしく思います。」と褒めたたえたとのことです。



あるとき直孝が大病をわずらいました。医者が診ても原因がわかりません。そんなとき直孝は生まれ故郷中里村の氏神様を祀った神社が荒廃していることを知りました。そこで直孝は急ぎ境内を整備し新しい社に建て直しました。するとみるみる病が回復したとのことです。これが「若宮八幡宮」で、今でも地元の氏神様として祀られています。

いつわばなし
直孝の逸話話

<伊達政宗の百万石のお墨付き>



大御所・家康が亡くなると、この時とばかり伊達政宗は幕府に揺さぶりをかけてきました。政宗は関ヶ原の戦いの際に家康ととりかわした百万石のお墨付きといわれる書状を取り出し、所領をよこせと詰め寄りました。このとき仲裁に入ったのが直孝です。直孝は「この太平の時代に何を申されるか。あえて揉め事を作るのはやめなさい。」と言って書状を取り上げ破いてしてしまいました。さすがの政宗も直孝には逆らえず、渋々従ったということです。

いつわばなし
直孝の逸話話

<将軍にももの申す>

あるとき秀忠は諸大名を集め将軍をやめたいと言いました。誰もが賛成する中で直孝だけは怪訝そうな顔でこう言いました。「いま将軍職を譲れば天下の乱れのもととなり、とても賛成などできない。大坂の陣以来、江戸城修復や東照宮造営などで多大な出費がかさみ各地の大名は大変困窮している。このような時に将軍が変われば諸大名は更に重税を課し民を苦しめることになるでしょう。」これを聞いた秀忠は、素直に直孝の進言に従ったといいます。



2代将軍・秀忠は直孝の能力を買っておりました。秀忠は亡くなる前に直孝を枕元に呼び家光の後見役を命じました。これ以来直孝は江戸に常駐することになります。その後直孝は3代将軍・家光の重臣として幕府の体制強化に努めますが、あまりの強権政治により浪人が増えてしまいました。そこで4代将軍に家綱が就任すると直孝はそれまでの武断政治から文治政治へと舵をきり始めました。その結果政権は安定し260年に亘る泰平の世を築くことができたのです。

すごい活躍したんだね。



い い なおすけ さくらだもんがい へん
井伊直弼と桜田門外の変

幕末に尊王攘夷派の浪士たちによって江戸城桜田門で暗殺された大老・井伊直弼は誰もが知るところですが、その祖先が直孝です。大老とは幕府の中で最高位にあたる役職ですが、井伊家が最も多くこの大老を輩出しています。その輝かしい第一号が直孝なのです。



井伊家の歴史

井伊家って井戸に関係あるんだよね。

「女城主・直虎」とも関係あるんでしょ？



そもそも井伊氏の始まりは平安時代にさかのぼり、起源は名門・藤原氏といわれております。1010年（寛弘7年）元旦、遠江国井伊谷（現在の浜松市）の神主が神社の井戸の傍らに捨てられていた赤ん坊を見つけました。神主は



この赤子を拾って育てますが、その後立派な賢い子供に育ちました。噂を聞いた遠江国司の藤原共資はこの子を養子として引き取ると、共保と名付けて自分の娘と結婚させました。その後成長した共保は1032年

（長元5年）井伊谷に居城を築き、「藤原」姓から「井伊」と改めました。

それから150年後、1180年（治承四年）に始まった源氏と平氏の戦いでは源氏に味方して勝利をおさめました。それにより井伊氏は源氏の厚い

信頼を得て遠州一帯を治める国人を任されるまでになりました。



さらにそれから150年、1335年（元弘5年）の南北朝の

戦いでは後醍醐天皇（南朝）に味方しました。しかし後醍醐天皇が亡くなり1392年（明德3年）南北朝が統一されると、井伊家は次第に

弱体化して今川氏の支配下に置かれるようになりました。

その後の井伊家はますます衰退の一途をたどり、ついには後継者となる男子が次々と非業の死を遂げ井伊家は滅亡の危機に陥りました。

そんな時に現れたのが「おんな城主」と呼ばれた井伊直虎です。

直虎は井伊家の血を引く一人の男子を育て、当時台頭し始めた徳川家康にその子を託しました。その男子こそがのちに直孝の父となる井伊直政でありました。



「女城主・直虎」と「井伊直孝」

2017年NHK大河ドラマの主人公にもなった直虎は、存続の危機にあった井伊家を再興させるためにただ一人生き残った幼い男子の後見役となってこの子を育てました。この子がのちの井伊直政で直孝の父です。浜松にある井伊家の菩提寺・龍潭寺には井伊家40代の当主が祀られております。





**私たちの住む中里から、そんなすごい人が
生まれなんて知らなかったわ。
そうだね。あらためて直孝公に関して
調べてみようよ。**

うぶゆ い
「井伊直孝・産湯の井」

その昔、徳川家康が浜松から駿府に居城を移す際、家臣の井伊直政は岡部宿に宿をとりました。そのとき中里村出身の娘が直政の身の回りの世話をすることになりました。直政はその娘を大層気に入り側室に迎え入れました。そして天正18年(1590年)、娘は中里村にて男の子を産みました。この子がのちの彦根藩2代藩主・井伊直孝です。このとき産湯を汲んだ井戸は今も大切に保存され、平成25年(2013年)、焼津市有形文化財に指定されました。



**今では「井伊直孝・産湯の井」と「若宮八幡宮の棟札」、
さらに「若宮八幡宮の石橋」の3つの史蹟が市の文化財
に認められ、地元の人たちや市によって守られています。**



わかみやちまんぐう むなふだ
「若宮八幡宮」と「棟札」

寛永6年(1629年)、3代将軍・徳川家光の後見役を務めていた彦根藩主・井伊直孝は自らが生まれた中里村の大井神社が荒廃していることを知りました。そこで直孝はこの境内を整備して、京都の石清水八幡宮からり祭神を分祀し新たに「若宮八幡宮」を建立しました。そのときに書かれた棟札は、当時石清水八幡宮の僧侶であり、かつ寛永の三筆と呼ばれた松花堂昭乗によって書かれたもので、昭和53年焼津市の指定文化財に登録されました。





(「若宮八幡宮」を参拝する「やいちゃん」と「ひこにゃん」)

譜代大名筆頭の地位を築いた「井伊直孝物語」

2022 年 2 月

企画・制作・発行 : 「直孝のふるさと」中里倶楽部

監修 : 焼津市歴史民俗資料館



本冊子では illustAc・いらすとや・FreePik のイラストを使用させて頂いております。